

2024（令和6）年1月17日

環境大臣 伊藤 信太郎 様  
林野庁長官 青山 豊久 様  
文化庁長官 都倉 俊一 様

## 絶滅危急種・本州産クマゲラ個体群の保全に関する要望書

NPO 法人 本州産クマゲラ研究会  
理事長 藤井 忠志  
津軽百年の森づくり  
代 表 根深 誠  
公益財団法人 日本自然保護協会  
理事長 亀山 章

クマゲラ (*Dryocopus martius*) は分類学上、キツツキ目 (PICIFORMES)、キツツキ科 (PICIDAE)、クマゲラ属 (*Dryocopus*) に属す日本最大のキツツキである (小笠原 1988)。世界的分布をみると北極圏、ロシアチュコト半島やカムチャツカ半島北部をのぞき、ヨーロッパ全体および北アジアからカムチャツカ半島まで広く生息している (Blume 1973)。その中でも特に本州に生息するクマゲラ個体群は、南限の東端に近く、昭和初期に八幡平で捕獲された折りにも動物分布境界線のブラキストン線を根拠に北海道からの渡り鳥と見なされる (川口 1935) など、動物地理学上も貴重な個体群といえる。

日本でクマゲラ属に含まれるキツツキ類は、クマゲラとキタタキ (*D. javensis*) の2種であり、キタタキは対馬にのみ局所的に生息していたが、1920年10月の記録を最後に、日本からは姿を消してしまった (日本自然保護協会 1986)。

クマゲラが国の天然記念物に指定されたのは1965年で、現在の環境省レッドリスト (環境省 2014) や北海道レッドリスト (北海道 2017) では絶滅の危険が増大している種の絶滅危惧II類 (VU) に、青森や秋田、岩手の北東北三県のレッドデータブックでは、「現在の状況をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難な種」という定義のIA類 (秋田県 2002) やAランク (青森県 2000、岩手県 2014) に位置づけられている。

クマゲラは、北海道と本州北部の一部に生息が確認されており、前者では比較的多く見られるが、後者においては生息個体数が極端に少なく、繁殖が確認されたのは、秋田県森吉山と白神山地、十和田八甲田そして田沢湖のブナ林だけである (泉 1985; 小笠原 1988; 藤井 2014)。

さらに、北海道がトドマツなどの針葉樹林に生息する一方 (有澤 1933)、本州はブナ林にのみ依

存する（小笠原 1988）など、両地域における生息環境の違いや、長年津軽海峡を境に遺伝子の交流がないことから、亜種として扱うべきものと指摘されている（小笠原 1988）。そのため、本州のクマゲラは、学術的にも保全上も重要な個体群と考えられる（日本自然保護協会 1986）。

クマゲラが生息していることを根拠に、秋田県森吉山は特定動物生息地保護林に、白神山地は日本初の世界自然遺産地域として指定される（藤井 2014）など、自然の豊かさと多様な自然環境の指標鳥類とみなされている（林野庁 2013）。

本州産クマゲラ研究会の藤井らが北東北三県に現存するブナ林に本種の痕跡がある地域を抽出し、繁殖期行動圏から推定した結果、現存個体数は 88-122 羽であり、鳥類における種を維持できる 100 羽前後のぎりぎりの状態であることが判明している。したがって、これ以上の減少は絶滅を示唆している。

しかし、前述した森吉山や白神山地での生息状況に関する情報は今や皆無に近い（藤井 2018a）。青森県白神山地では 2008 年 6 月、秋田県森吉山では 2014 年 6 月を最後に繁殖活動が行なわれておらず。個体撮影記録は、白神山地では 2009 年 5 月 20 日、森吉山では 2017 年 4 月 30 日が最後であり、目撃記録は白神山地の 2014 年 10 月 26 日が最終となっている。本州産クマゲラ研究会の調査がすべてではないが、クマゲラ生態調査に特化した研究団体でも生息確認がされていないことから、現在本州産クマゲラは絶滅の危機にあり、『幻のキツツキ』と化している。

キツツキ科鳥類は、主に森林の居住者であり留鳥であるため、他の場所（越冬地域や通行途中の地域）での条件や出来事によって影響を受ける渡り鳥よりも、指標鳥的役割を果たしていることが明らかである（Gorman 2011）。そのため、森林の生物多様性の良好な指標となる（Angelstam 1990, Mikusinski 1997）。世界自然遺産白神山地や特定動物生息地保護林の森吉山では、その植生自然度の豊かさの象徴種としてクマゲラを前面に打ち出しており、もしクマゲラの生息が消滅すれば、それぞれの価値を現世代で失うことになるため、国をあげての早急な保護・保全策を講じる必要がある。

以上のことから、我々は下記の点を要望する。

1. 国として緊急に各省庁担当者の協議の場を設けること
2. クマゲラを絶滅危惧 I 類に格上げし、今後 50 年間は推移を見守ること
3. 現状における本州産クマゲラ個体群の生息実態調査（推定個体数把握も含む）を実施すること
4. 前項 3. の生息実態調査を分析し、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）の国内希少野生動物種の指定をし、個体数回復のために今やるべき方策の保全計画を策定し、それを直ちに実行すること
5. 本州産クマゲラ個体群の保全のための国を挙げてのプロジェクトチームの結成および予算化を行なうこと

以上

## 参考文献

- Angelstam,P.(1990): Factors determining the composition and persistence of local woodpecker assemblages in taiga forest in Sweden-case for landscape ecological studies. In Carlson,A.&G.Aulen(eds.):Conservation and management of woodpecker populations. Swedish University of Agricultural Science,Dept.of Wildlife Ecology,Report 17. Uppsala,Sweden.
- 有澤 浩 (1993) クマゲラの森から. 朝日新聞社, 東京.
- Blume, Dieter. (1961) Über die Lebensweise einiger Spechtarten (*Dendrocopos major*; *Picus viridis*, *Dryocopus martius*) Jour.fur Ornith. 102, 1-115.
- Bocca, M., & A. Rolando (2003) :The ecology of the Black Woodpecker in Mont Avic Natural Park(Italian Western Alps). In : Pechacek, P. & W. d'Oleire-oltmanns (eds) : Fifth International Woodpecker Symposium, Berchtesgarden, Germany, 23-25 March 2001. Forschungsbericht 48.
- Campbell B & Lack E (1985) *A Dicrionary of Birds*.T & AD Poyser, London.
- Cramp S(ed) (1985) *Handbook of the birds of Europe, the Middle East and North Africa. The Birds of the WesternPalearctic. Vol.4*. Oxford University Press, Oxford.
- Cuisin, M (1972) Note sur le ecologie du pic noir. Oiseau et la Revue Francaise d'Ornithologie 42: 28-34. In French.
- Cuisin M. (1977) Le Pic Noir (*Dryocopus martius* (L.)) En Foret. Dilan des observations sur son Regime alimentaire Et Nouvelles Donnees Sur son activites be Charpentier L'oisean et R.F.O., V.47;159-165.
- 藤井啓明 (2009) 本州産クマゲラの繁殖期における雌雄分担とその生態に関する研究. 岩手県立大学大学院総合政策研究科博士前期課程論文. 岩手県立大学, 滝沢.
- 藤井忠志 (1999) 本州のクマゲラ. 緑風出版, 東京.
- 藤井忠志 (2003) ブナの森から. 本の森, 仙台.
- 藤井忠志 (2007) 北東北 森の博物誌. 本の森, 仙台.
- 藤井忠志 (2011) クマゲラの生態誌-25年の歳月を経て編集された本州産クマゲラの生活史-. NTS, 東京.
- 藤井忠志 (2012) 総説「日本のクマゲラ」. 岩手県立博物館調査研究報告書 29 : 1-39.
- 藤井忠志 (2014) 日本のクマゲラ. 北海道大学出版会, 札幌.
- 藤井忠志 (2018) 東北のクマゲラの現状. 私たちの自然 No.614:16-19. 日本鳥類保護連盟, 東京.
- 藤井忠志 (2021) クマゲラの生態と本州における研究小史. 日本鳥学会誌 70 : 1-18.
- 藤井忠志・望月達也 (2003) 本州産クマゲラの繁殖期において観察された行動. 岩手県立博物館研究報告第 21 号, 19-22.
- Gill FB (2007) *Ornithology 3rd Edition*. WH Freeman, New York.
- GORMAN GERARD (2011) THE BLACKWOODPECKER A MONOGRAPH ON DRYOCOPUS MARTIUS. Lynx Edicions, 184p, Barcelona.
- Grant PR & Grant BR (2008) How and why species multiply:The radiation of Darwin's finches. Princeton Univ Press, Princeton.
- Hansen F (1989) 若者が家をつつく ボーンホルム島のクマゲラ事情 (上田恵介訳) .アニマ 205 : 30-33.
- Hansen F (1990) SOME ASPECYS OF THE DYNAMIC OF AN ISOLATED BLACK WOODPECKER POPULATION ON THE ISLAND OF BORNHOLM . Conservation and management of woodpecker populations. Sweedish University of Agricultural Sciences Department of Wildlife Ecology Uppsala 1990 : 57-62.
- 原 正利 (1992) 世界のブナとブナ林. 遠藤泰彦・原正利・大場達之 (編) . ブナ林の自然誌 : 43-48.

- 千葉中央博物館, 千葉.
- 北海道保健環境部自然保護課 (1990) 野生動物分布等実態調査報告書 クマゲラ生態等調査報告書. 北海道保健環境部自然保護課, 札幌.
- Homma, Kohsuke (1997) Effects of snow pressure on growth form and life history of tree species in Japanese beech forest. *Journal of Vegetation Science* 8 : 781-788.
- 堀田正敦編 (1831) 観文禽譜. 江戸幕府, 江戸.
- 泉 祐一 (1985) ブナ林の鳥類. 梅原 猛・安田喜憲・南木睦彦・岡本素治・渡辺 誠・市川健夫・太田 威・石川純一郎・中川重年・斎藤 功・大場達之・西口親雄・泉 祐一・四手井綱英 (著) ブナ帯文化 : 251-269. 思索社, 東京.
- Jeffrey R. Walters (1996) 鳥をしらべる 鳥をまもる. 日本鳥学会国際鳥学セミナー1996 シンポジウム資料. 発行責任者 (山岸 哲), 編集責任者 (石田 健). 日本鳥学会, 東京.
- Johansen, B. T. (1989a) :Sortspaettens *Dryocopus martius* bestandsstorrelse territoriestedrelse og yngleresultateri Tisvilde Hegn, Nordsjaelland, 1977-1986. *Dansk Orn.Foren.Tidsskr.*83:113-118. In Danish with English summary.
- 加藤 克 (2012) ブラキストン「標本」史. 北海道大学出版会, 札幌.
- 川口孫治郎 (1934) クマゲラの實驗. 京都大学理学部蔵.
- 川口孫治郎 (1937) 柳田國男の本棚 第十卷 日本鳥類生態学資料. 「クマゲラ *Picus martius* Linne の生態」. 巢林書房, 東京.
- 風間辰夫・土田崇重 (2008) 日本で初採取されたチャバラアカゲラ *Dendrocopos hyperythrus* について. 山階鳥類学雑誌, 39(2), 124-126.
- 金城道男 (1992) ヤンバルの森の珍鳥 ノグチゲラ. 動物たちの地球 29 ●鳥類II5 キツツキ・ミツオシエ・オオハシほか, pp140-142. 朝日新聞社, 東京.
- 小堀脩男・武田稔・内貴英男・池長裕史 (2007) 石川県舳倉島におけるチャバラアカゲラ *Dendrocopos hyperythrus* の観察記録. 日本鳥学会誌, 56(1), 60-62.
- 小西弘臣・鈴木利典・玉田克己・藤巻裕蔵 (1993) 北海道中央部におけるクマゲラの繁殖生態. 山階鳥研報 25:76-92.
- 熊谷三郎 (1951) 仙台付近の鳥. 自費出版, 仙台市.
- 黒尾正樹・藤井忠志・十河尚旗・八木橋焦土・長井和哉 (2016) ミトコンドリア DNA によるクマゲラの遺伝的多様性の解析. 日本鳥学会 2016 年度札幌大会, 2016 年 9 月, 札幌.
- 松岡 茂 (1992) 樹上での生活に長けたキツツキ目の鳥たちは, 木や崖の穴に巣をつくり, 独特のあしゆびを持つ. 動物たちの地球 29 ●鳥類II5 キツツキ・ミツオシエ・オオハシほか, pp130-131. 朝日新聞社, 東京.
- Mikusinski, G. (1997) : Winter foraging of the Black Woodpecker *Dryocopus martius* in managed forests in south-central Sweden. *Ornis Fennica* 74:161-166.
- 森岡弘之 (1955) 世界のキツツキ (I) どうぶつと動物園
- 中村充博 (1992) キツツキはどうやって餌を見つけるか. 動物たちの地球29●鳥類II5キツツキ・ミツオシエ・オオハシほか. 朝日新聞社, 東京.
- 中村充博・久末正明 (2015) クマゲラ生息地におけるブナの林況別の枯死木の状況. 岩手県立大学総合政策学会紀要 : 16 (2) , 185-190.
- 中静 透・斎藤 宗勝・松井 淳・蒔田 明史・神林 友広・正木 隆・長池 卓男・杉田 久志・金指 達郎・関 剛・太田 敬之・櫃間 岳・八木 貴信・橋本 徹・酒井 暁子・壁谷 大介・高田 克彦・星崎 和彦・丑丸 敦史・大場信太郎・福田 貴文・新井 伸昌・阿部 みどり・上迫 正人・田中健太・市栄 智明・鈴木 まほろ・乾 陽子・中川 弥智子・黒川 紘子・藤森 直

- 美・鮫島 弘光・畑田 彩・堀 真人・沢田 信一 (2003) 白神山地における異なった構造をもつブナ林の動態モニタリング. 東北森林科学会誌8:67-74.
- NHK (2023) 地球ドラマチック 森を支えるキツツキパワー！WOODPECKERS THE HOLE STORY (アメリカ 2022 年) 制作:Coneflower Productions THIRTEEN PRODUCTIONS 編集：JIM ISLER 日本語版鳥類学監修：西海功 (国立科学博物館) 翻訳：因愛子
- 仁部富之助 (1948) 野鳥閑話 上. 社団法人 北方文化連盟, 仙北郡.
- 日本自然保護協会白神山地クマゲラ調査グループ (1986) 白神山地のクマゲラ-本州産クマゲラの保護とその生息地保全の必要性-. 日本自然保護協会 (編) 日本自然保護協会報告書第 62 号 白神山地のブナ林生態系の保全調査報告書：117-143. 日本自然保護協会, 東京.
- 日本鳥学会 (2000) 日本鳥類目録 改訂第 6 版. 日本鳥学会, 345p, 帯広.
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録 改訂第 7 版. 日本鳥学会, 438p, 三田.
- 日本鳥学会 (2023) 日本鳥類目録改訂第 8 版. 日本鳥学会, 兵庫.
- 野幌森林公園を守る会 (2019) 野幌森林公園のクマゲラを守ろう-クマゲラの棲む森を探る- (野幌森林公園を守る会 35 周年記念誌)：1-58. 野幌森林公園を守る会編, 江別.
- Ogasawara K (1987) Sonographic analysis of calls and behavioral observations of the Black Woodpecker *Dryocopus martius* in central Europe. *J Yamashina Insti Ornithol* 19: 125-138.
- 小笠原 嵩 (1988) クマゲラの世界. 秋田魁新報社, 秋田.
- 小笠原嵩編 (1990) 分布南限地におけるクマゲラの生態に関する基礎的研究. 平成元年度科学研究費補助金研究成果報告書 75p, 秋田大学, 秋田.
- Ogasawara K., Izumi Y. & T. Fujii (1994) : The status of Black Woodpecker in Northern Tohoku District, Japan. *Journal of the Yamashina Institute for Ornithology* 26 (2) : 87-98.
- 小野蘭山 (1803) 本草綱目啓蒙
- 大野正男 (1980) 日本産主要動物の種別文献目録 8 クマゲラ, 東洋大学紀要 教養課呈編 (自然科学) 第 23 号.
- 大野正男 (1982) 日本産主要動物の種別文献目録 8a クマゲラ, 東洋大学紀要 教養課呈編 (自然科学) 第 24 号.
- 大野正男 (1984) 日本産主要動物の種別文献目録 8b クマゲラ, 東洋大学紀要 教養課呈編 (自然科学) 第 25 号.
- 大野正男 (1986) 日本産主要動物の種別文献目録 8c クマゲラ, 東洋大学紀要 教養課呈編 (自然科学) 第 26 号.
- 林野庁 (2013) 世界自然遺産地域における成果と今後求められる保全管理について論点整理 最終版 (知床, 白神山地, 小笠原諸島, 屋久島の保全管理の状況及び課題を踏まえた検討). 新たな世界自然遺産候補地の考え方に係る懇談会, 東京.
- Rolstad, J., E. Rolstad & O. Saeteren (2000) : Black Woodpecker nest sites : characteristics, selection, and reproductive success. *Journal of Wildlife Management* 64(4):1053-1066.
- 世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会 (2018) 白神山地 Q&A～調査会が答える 29 の疑問～世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会, 遠野市.
- 島津重豪 (1830) 鳥名便覧. 薩摩藩, 薩摩.
- Suzuki MAHORO, Chiho YANAGIHARA, Tadashi FUJII and Masatoshi YUI (2007) : Nest site environment of the Black Woodpecker *Dryocopus martius* in northern Honshu, Japan. *Ornithol.Sci.* 6:141-144.
- 鈴木道男 (1990) 堀田正敦の『観文禽譜』(一) -鳥類図譜としての評価及び科学史上の位置づけ. 日本文化研究所研究報告 第 26 集. -
- 鈴木道男 (1996) 堀田正敦の『観文禽譜』. THE ミヤギ, No.2.

- 鄭 鍾烈 (2019) まぼろしのキツツキ キタタキはどこへ? *Birder* 33(1): 32-33.
- Tjernberg, M. K. Johnsson & S. G. Nilsson (1993): Density variation and breeding success of the Black Woodpecker *Dryocopus martius* in relation to forest fragmentation. *Ornis Fenn.* 70:155-162.
- 富川 徹 (2022) 野幌森林公園のクマゲラと巨木調査. 北海道野鳥だより第 207 号, 北海道野鳥愛護会
- 白井俊二 (1986) 特集・キツツキ 森の大工は道化者. 野鳥 No.484, 14-17. 日本野鳥の会, 東京.
- 鷺谷いづみ (2010) なぜ, 絶滅を防がなくてはいけないのか, どう防いだらよいか.  
自然保護 No.513: 4-5. NACS-J, 東京.
- 渡辺修治 (2005) 考える識別・感じる識別 第 27 回キツツキ類. *BIRDER*, 19 (7), 59-65.
- Winkler H. & Christie D A (2002) Family Picidae (Woodpeckers) In: del Hoyo J. Elliot A & Sargatal J (eds) *Handbook of the Birds of the World. Vol.7. Jacamars to Woodpeckers*: 296-555. Lynx Edicions, Barcelona.
- Winkler H. · Nobuhiko Kotaka · Anita Gamauf · Franziska Nittinger · Elisabeth Haring (2005) On the phylogenetic position of the Okinawa woodpecker (*Sapheopipo noguchii*). *J Ornithol.* 146: 103-110.
- Winkler, H. & Christie, D.A. (2019) Woodpeckers (Picidae). In: del Hoyo, J., Elliott, A., Sargatal, J., Christie, D.A. & de Juana, E. (eds.). *Handbook of the Birds of the World Alive*. Lynx Edicions, Barcelona.
- 山岸哲, 松岡茂, 堀田昌伸 (1992) 用語解説. 動物たちの地球 29 ●鳥類II5 キツツキ・ミツオシエ・オオハシほか, p160. 朝日新聞社, 東京. 4
- 山本 弘 (1972) 八幡平学術調査報告 八幡平地域の哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類. 日本自然保護協会報告, 第 42 号.
- 米林 伸 (1992) ブナ林の地史的成立過程. 遠藤泰彦・原正利・大場達之 (編). *ブナ林の自然誌*: 56-60. 千葉中央博物館, 千葉.
- 吉岡邦二 (1978) 小又峡天然記念物特別調査報告. 文化庁, 東京.